

沖縄ファースト

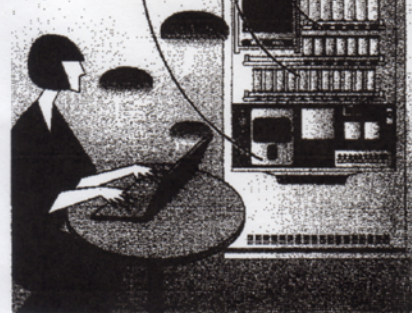
無線LAN付き自販機導入

「無料・利用価値」に強み

インターネット事業の沖縄ファースト(豊見城市、喜屋武章社長)は10月下旬から、無料でインターネットやメールが利用できる無線LAN機能を備えた自動販売機「メディアバンダー」を、県内で初めて導入する。利用者は自販機の半径50以内でノートパソコンなどを無線LANに接続して利用する。今後、ホテルや大学のほか、各地の観光施設を中心に年内で100台の導入を計画。3年後には1000台の設置を目指す。メディアバンダーの設置で自販機自体の売り上げ増加や、設置施設の集客率の向上を見込んでいる。

観光施設中心に配置

沖縄ファーストは、同都や名古屋を中心とした無線LAN機能付き自販機を運営する自販機企画開発のホーキング(東京都、宮岡皓社長)と、8月に販売代理店契約を締結した。喜屋武社長は「さまざまな施設に設置されている自販機は情報媒体としても利用価値が高い。将来は自販機から地域情報などを提供し、観光振興にもつなげたい」と意欲を示した。



メディアバンダーは本島中部にある大学内食堂

に設置し、回線工事が終了する今月下旬から運用を始める。通信速度は最高12メガとなる。インターネット利用のほか、最大20秒の映像情報発信モニターを備えた「メディアバンダー・クランディオ」では、ニュースや天気予報を配信したり、自販機設置地域の観光ルート案内や

設置費用は自販機に飲料を提供するメーカーの販売促進費で充てるため、無料で無線LANが利用できる。個人情報の登録などは必要ないため、セキエリティー性も高いという。ホーキングは、自販機に飲料を供給するオペレーター会社40社の共同出資で2002年12月に設立。全国で無線LAN付き自販機1万台の展開を目指している。宮岡社長は「自販機業界は仕事が厳しく、これまで若者に敬遠されてきた。自販機と最新の情報技術を組み



合わせることで、業界に促進にもつながる」とメッセージを向させ、雇用を待てる。